

助成事業実施報告書

団体名 焼津災害支援ネットワーク

代表者氏名 伊藤弘泰

1. 助成プロジェクト名

市民トリアージ育成事業

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、

その段階からご記入ください。会員数など180文字程度まで）

現在、会員数の減少により活動が厳しい状況です。退会が相次ぎ、現在のメンバーは5人となり、活動日数も減少しました。そのため、被災地支援や防災啓発活動に影響が出ています。課題として、人手不足、新規会員の募集、少人数でも継続可能な活動の模索が挙げられます。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）

大規模災害発生の可能性が高まっている現在、私たちには自然災害に対する防災意識の向上と具体的な防災対策が求められています。その方法の一つとして、会員の知見を高めると共に、市民によるトリアージの必要性を高めることが課題であると考えました。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）

・会員の知見を高める活動

DIG災害図上訓練 一人イメージTEN出前講座 地域防災指導員養成講座
静岡県VC図上訓練

・地域社会への還元活動

市民トリアージ研修会（応急手当の具体も含む）
地域防災訓練

5. プロジェクトで得られ「結果」（OUTPUT 実施回数や参加者数など）「成果」

（OUTCOME 事業によって生まれた直接的な変化）「社会的変化」（IMPACT 事業が社会に与えた影響）などの『効果』

延べ60名前後の人人が講習会や研修会に参加し、防災に関する知識を深めました。また、地域住民46名に講演や講習を実施し、防災意識の向上に努めました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など

安田先生を講師に「市民トリアージ」研修会を実施しましたが、受講者は災害の被害想定値に対する対応値の乖離を実感し、市民によるトリアージの必要性を痛感したようです。防災意識の向上や発災後の対応を他人任せにしないという共助の認識を高めるためには、今後も引き続き研修会や訓練・講習の実施が必須になります。さらに共助の意識を高めるためには、成人だけでなく中高生への研修も必要だと考えます。

課題解決には今一度初心に帰りますは行動してみる事が必要思われます。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり

